

プレスリリース（2019/8/22 発信）

偉大な可能性：平和構築者としての女性 第10回世界宗教者平和会議ドイツ・リンダウ大会第二日目

中東・北アフリカ地域の宗教代表者らが、平和のための世界的対話における女性の役割について議論し、夜には野外で代表団やリンダウ市民がそれぞれの宗教的価値観に配慮された諸宗教の食事を共にした。

2019年8月21日、ドイツ、リンダウ

ドイツ福音教会・諸宗教間対話担当主教兼 WCRP/RfP 共同議長のペトラ・ボッセ＝フーパー師が議長を務めた特別セッションでは、チュニジア、イラク、エジプト、バーレーンのハイレベル代表者らが平和のための諸宗教対話における女性の役割について議論した。インゼハレ・リンダウ会議場では、代表団が暴力的紛争の予防や変容についても議論した。代表団はこの日、リンダウの市場広場に並べられた屋外テーブルで諸宗教の夕食をリンダウ市民と共にし、一日を終える。

チュニジア憲法制定議会初代副議長兼 WCRP/RfP 国際名誉会長のメーレジア・ラビディ・マイザ師は、分断の要因となる宗教からの転換を図るため、慈悲心や共感、内省の促進、平和的共存の追求といったすべての宗教が持つ根本的平和構築の価値へと視点を変えていくよう取り組んでいる。世界各地の女性によって、女性が平和構築プロセスにおける重要な役割を担っていることが証明されているが、その活躍は十分に注目されないことが多々ある。WCRP/RfP 主催者は今年、この事実を正当な評価を与えたいと考えている。ラビディ・マイザ師に加え、前イラク議会議員兼 Alhikma 運動体政治局メンバー兼アルハーキム財団前国際ディレクターのレイラ・アルハファジ氏、エジプト移民大臣兼中東教会協議会代表のナビラ・マクラム大臣閣下、前駐米バーレーン大使のフダ・アズール・ヌヌ大使閣下らもインゼハレ会議場での議論に加わった。

代表団並びに参加者は、ミャンマー並びにナイジェリアにおける暴力紛争を変革するために WCRP/RfP により試みられた手法や取り組み方についての理解を深めた。ミャンマーでは、WCRP/RfP は、軍隊と民族武装勢力の間の数十年にわたる紛争を始め様々な暴力的紛争を終結させるための取り組みを支援するために重層的にして複数の社会構成主体による取り組み手法を開発推進した。国の外交レベルの取り組みとしては、ハイレベルの諸宗教指導者代表団がミャンマー政府から招待され、ミャンマーに国内の和解と和平に関する WCRP/RfP 諮問フォーラムの設置の要請を盛り込んだ「ミャンマー国民への書簡」を発表した。ミャンマー社会を構成するあらゆる主体がお互いに対話し、協力できる「安心できる空間」が決定的に欠如している状況に対応するために、このプログラムは対話と解決のための行動をもたらすための諸宗教的で社会構成多主体間の協力による、他に類をみない社会環境作りを進めている。これについては、ミャンマー政府も紛争の変革に諸宗教者が果たし

ている極めて重要な役割を公に認め、諸宗教間の対話と協力を促進させるための WCRP/RfP の活動に対し支持を表明した。このようにしてミャンマーに平和と和解づくりを目指す諸々の取り組みを進める中で、WCRP/RfP は、地域の和平への取り組みの中で、「最も高名にして多くの人々の注目を集める国際的な専門的諸宗教者グループ」として高い評価を受けてきた。

ナイジェリアのアブジャ教区大司教兼 WCRP/RfP 国際共同議長、WCRP/RfP アフリカ委員会共同議長のジョン・オナイエケン枢機卿並びにソコト・イスラーム王国君主兼 RfP 国際共同会長のムハンマド・サアド・アブバカル3世閣下（代理代読）は、ナイジェリアでの民族的、宗教的な障壁を超えて緊張関係を緩和させるために、暴力的過激主義に向き合い、そこに対話の場を創り出すために諸宗教者が推進している活動について報告した。

行き過ぎた武力の行使に代えて対話を推進するためにナイジェリア政府に提言要請を重ねてきた結果として、未だボコ・ハラムによる拘束下にあるチボクの女子学生の解放という成果をもたらした。

WCRP/RfP のパートナーである核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)は、本会議において、宗教指導者や地域社会が協力し、核兵器の脅威についてさらなる教育や廃絶への参画を推し進め、力を結集するよう求める初の「行動ポイント」を発表した。核兵器の全廃に関する核兵器禁止条約への支持表明と、すべての政府に対し、できるだけ早く署名・批准するよう求めた。

代表団並びに参加者はルイトイトポルト公園にて執り行われた式典にも参加した。そこに設置された宗教間平和の永久的象徴となる 7.5 メートルの木製彫刻、「リング・フォー・ピース（平和のための輪）」は諸宗教的、霊的な意味合いを持つ。演説の中で、国連『文明の同盟』上級代表のミゲル・アンヘル・モラティノス・クヤウベ氏は、宗教遺産や聖地の管理・保護は、世界の宗教の多様性とその存在理由を尊重するものであると強調した。

夕方には、リンダウの地元の宗教コミュニティが、地元市民と代表団をリンダウの市場広場で行われる夕食会に招待している。この夕食会はプロテスタントの牧師ヨルグ・ヘルムート師とカトリックの司祭ロバート・スクルジペク師、そして地元市民であるエルフリーデ・フィッシャー氏によって準備された。夕食会は、市民やその他関係者が代表団と話をする機会にもなる。「世界宗教と市民社会の平和的対話基金（仮訳）」の業務最高責任者ウルリッヒ・シュナイダー氏は、「ここリンダウで多くの異なる文化の代表者との夕食のひと時を楽しみにしています」と締めくくった。

更に詳しい情報は: <https://ringforpeace.org/press> | <https://rfp.org>

#rfp19 #ringforpeace #religions4peace | facebook.com/ringforpeace | instagram.com/ringforpeace

twitter.com/ringforpeace

報道関係への問い合わせ:

General: presse@ringforpeace.org

Katja Bettermann, bettermann@betternau.de, +49 151 14567140

Lena Hackforth, lena.hackforth@ringforpeace.org, +49 176 568 770 84